

第12回 NOMURA Award（特別協賛社賞）受賞者コメント

東京都立西高等学校 篠田健一郎 教諭

参加数 : 10回（※2~4回東京都立蒲田高等学校、6~10回東京都立富士森高等学校で参加）

受賞コメント

STOCK リーグ参加の経緯

STOCK リーグが始まる前から概要は日本経済新聞社の方から説明を受けていたので、STOCK リーグについては第1回が始まる前から参加したいと考えていました。生徒が自ら進んで取り組む「主体的な学び」のひとつの手だてとして始めました。とくに小論文にまとめていくところに大きな魅力を感じました。パフォーマンスだけでは教育の現場にとってはもの足りません。生徒が自ら調べ考えまとめていくことはとても大切なことで、それを学校の外の世界の皆さんに評価してもらえることも意味があると考えます。公民科「現代社会」「政治・経済」の学習において経済分野を学習してからの参加を原則としています。授業で学んだことを現実の世界との接点をもちながら改めて考えてみることは生徒にとって重要です。

STOCK リーグの取り組みについて

生徒を指導するときに最も留意する点は、生徒自身で「考える」ようにすることです。自分ひとりでも、チームで意見交換しながらでも、いろいろな資料や文献を読んでも、とにかく自分で考えることがどれほど大変で大切かを知ってもらおうとしました。STOCK リーグにはこれまで3つの勤

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

務校で取り組んできました。いずれの高校でも生徒の変化を見ることができました。学ぶことの意味が見いだせなかった生徒が学ぶことに真剣になっていく姿も見ました。家庭で STOCK リーグの内容が話題になって経済のことで親と話ができたことを素直に喜ぶ生徒の姿も見ました。レポートをまとめる作業が自分の高校卒業後の進路を考えることにつながり保育士をめざす決意を固めた生徒の姿も見ました。長い文章が書けないと嘆いていた生徒が文章を書いていく技術を身に付けていく過程も見ることができました。

また、「よい会社なのに株価が低迷している会社に投資して、その会社を応援する。」という趣旨の話から、当時額面割れとなっていた金属メーカーの事例をあげて説明したところ、あくまで経済学習の例としてあげただけのことなのに、個別銘柄を推奨したと誤解されたことがありました。授業での説明は十分気を付けて慎重にしなければと痛感させられたエピソードもありました。

参加を終えて

言語活用能力の向上が最近とくに叫ばれていますが、文章でまとめたり、発表したりすることの大切さは、後期中等教育においては昔も今も変わりません。金融・経済という生きた素材を対象にしながらも小論文で勝負するという形式で、生徒に多面的多角的にものごとをとらえさせることができたことが最もよかったと感じます。当然これは苦勞でもあるわけで、文章でまとめることが苦手な生徒がいる学校であれば、社会科学系小論文指導をとまなうわけですから、大変です。それでも生徒の成長していく姿をすぐ隣で見ていくことができることは教員としてはうれしいことです。

これから STOCK リーグに挑戦しようという先生方には、とにかく結果を恐れず挑戦することが大切です。失敗したらどうしよう、生徒に質問されて答えられなかったらどうしよう、などと悩まずに、まず生徒と一緒に学ぼうという気持ちで始めてはいかがですか。そもそも、生徒の「主体的な学び」を進める STOCK リーグには失敗はないのです。すべてが成果です。不十分であれば来年再挑戦して、今年の不十分なところを克服していきましょう。質問されてわからないことはたくさんあります。「一緒に調べよう」でよいではありませんか。生徒同士の学びあいも大切ですが、生徒と先生が学び会う姿もすてきではありませんか。

教員というのはとかく「お山の大将」になりがちです。STOCK リーグでは自分を客観的に見なおすことができます。これは授業改善につながります。よい機会を与えてくださった日本経済新聞社様はじめこのプログラムを応援してくださる野村証券様などの企業の皆さんに御礼申し上げます。今後とも後期中等教育にご支援いただければ幸いです。

第12回 NOMURA Award（特別協賛社賞）受賞者コメント

東北学院大学 アレイ・ウィルソン 教授

参加数 : 10回

受賞コメント

STOCK リーグ参加の経緯

私の高校時代、学校では、経済学に興味を持たせるため、授業に株式投資ゲームを取り入れていました。私自身、大学生の頃には株式投資を始めており、日本では資産運用に関する考えが他の先進国に比べ、遅れていると感じていました。そんなある日、日本経済新聞で STOCK リーグに関する記事を目にした時、高校の頃の体験を思い出し、学生に経済を実感させる良い機会だと思い、参加することを決めたのがきっかけです。

私のゼミのテーマは「今日の経済と企業」ですが、教室での経済学は理論が多く、学生にとっては抽象的でわかりにくい場合があります。なるべく具体的な例を使って説明したとしても、教科書を読むだけの典型的なゼミでは、考える力を養う事は困難でした。

STOCK リーグを通して自然に新聞を読み、株式市場などをチェックするようになり、その結果、経済の変化が企業にどのような影響を与えるか、企業はどのように行動するべきかを考えるようになりました。

STOCK リーグの取り組みについて

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

テーマを設定する前に、今日の経済状況、また、最近の経済の動きについて様々な面から調査させます。特に最近の「経済変化」については詳しく調べ、考えさせます。その後、グループ結成を行いますが、グループを結成する際は、友人同士は同じグループにしないルールを設けています。あまりよく知らない学生同士が組むことで、コミュニケーション力とチームワーク力を高めることが狙いです。友人に負けたくない学生も多く、友人と別々にすることで、グループ間の情報交換を行いつつ、同時に競争意識が生まれます。

教科書を読んでまとめるのと違い、レポートを作成するために、テーマを設定し、関連データを探し出す必要があります。レポート内容の説得力を高めるために、データベースなどを探し、欲しいデータ・情報が見つからない時はどうするかを考えさせることが、良い勉強になります。又、わかりやすく自分の考え方を伝えるために、それぞれの意見を取り入れて話し合うようになりました。最近では、株価のアプリに自分のポートフォリオを登録しています。バーチャル株式投資ではありますが、STOCK リーグ終了後でも、自分が投資していた企業がどうなっているかを皆がチェックしています。最近の株価の動きについての話が多くなり、両親や祖父母等、家族との話題作りにも役立っているようです。

参加を終えて

STOCK リーグを通して、学生達は、自分で考え、調べ、まとめることにより、教科書にある1つの答えではなく、様々な面から経済学の難しさ、面白さを実感できます。

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

学生が熱心になればなるほど日々指導に追われ時間が足りないと感じますが、この経験で学生の成長も大きいと確信していますので、やりがいがあります。経済の動き、変化を肌で感じることで、経済に対する興味を持たせるだけではなく、同時に経済、業界、企業がどのように変化しているかを自分で考える事ができます。その考える力こそが、自分の将来や就職活動にも役に立つと信じています。

今年は、参加するべきかどうか悩みました。1年前の東日本大震災で、本校の学生の多くが被害を受けました。私のゼミにも、宮城県石巻市、福島県飯舘村出身の学生がいて、今でも避難生活を送っています。しかし、結果的には、STOCK リーグへの参加は、震災で頭が一杯であった学生に、前向きに日本の将来を考える時間を与えたと思います。被災地の学生達にとっては辛い1年でしたが、どんな時でも立ち止まらずに考え、行動し続ける事が大切であると実感できたので、今年、参加して良かったと思います。

第 12 回 NOMURA Award（特別協賛社賞）受賞者コメント

会津大学短期大学部 平澤賢一 教授

参加数 : 12 回

受賞履歴 : 審査委員特別賞 : 第 12 回 (※第 12 回以前の受賞履歴を掲載しています)

受賞コメント

ご挨拶

この度の表彰式は、東日本大震災（2011.3.11）から一周年を翌日に控えた 3 月 10 日に行われました。福島県と宮城県出身の学生たちを伴って表彰式に臨みましたが、東京大空襲（1945.3.10）の被災者である両親を持つ私にとっては、思うところ多き一日でありました。東京大空襲と東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

「NOMURA Award（特別協賛社賞）」受賞は思いもかけぬ吉報でした。ゼミの学生たちの「審査員特別賞（大学）」とのダブル受賞は誠に名誉なことであり、関係者の皆様には心より御礼申し上げます。表彰式会場となった日本経済新聞社本社からほど近いところで、私はかつて会社勤めをしておりました。この地において、教育者としての取り組みについて表彰を受けたことは実に感慨深いものがございました。管仲の一節にある「終身之計、莫如樹人」の精神に学び、人材育成という側面から東北復興のために微力を尽くして参りたく存じます。

STOCK リーグ参加の経緯

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

第1回から参加させて戴いておりますが、日経新聞の募集広告面で知ったものと記憶しております。勤務先は旧県立の短大（現在は公立大学法人）です。担当講義（現代企業論）では株式会社について論じていますが、その勉強を深めるのに役立つのではないかと学生たちには周知をし、所属ゼミを問わず参加希望者を募ったのがきっかけでした。爾来、ゼミの学生であろうとも参加を強制することは一切せず、学生たちの自主参加に任せています。学生たちが「やらされている」という意識のまま取り組んでいては、参加の意義は薄れることでありましょう。

私の所属学科では1年次後期からのゼミ履修を必修としています。学生たちは自ら卒業研究テーマを設定して調査研究を重ね、成果をペーパーにまとめます。そして一般公開の場での卒業研究発表が課されます。STOCKリーグを通じて学んだことは、卒業研究において求められるテーマ設定から発表までの一連の作業への応用が期待できます。二年間という短い在学期間中での教育的効果を高めるという観点からも、STOCKリーグへの「自主的な参加」は大いに有効であると思っております。

STOCK リーグの取り組みについて

全国数千人の参加者がいることを意識させることで、行動範囲が限定的になりがちな（地方の）学生に競争心を抱かせる好機となります。既述の通り、学生が自主的に取り組むように叱咤激励し続けていくことが肝要かと思えます。受賞は出来なくとも、テーマを掘り下げて徹底的に考え抜いて取り組んだことを評価してあげることが、教育的観点からは重要でありましょう。複数チームが参

加し、結果的に受賞に至らなかったチームメンバーをいかに指導するかも留意点ではないかと思えます。

STOCK リーグでは、投資を通じて「日本をどうしたいのか」を考えてもらうことが望まれているのではないのでしょうか。「あなた方の故郷“Fukushima”をどうしたいのか」を、学生の立場から発信しなくていいのかと発破をかけた途端に目の色が変わりました。福島に住まれ育った者だからこそその視点をはっきりさせること、被災県だからとの同情を寄せてもらうものではないことを言いかけました。石巻視察のほか、色々な分野の方々へヒアリングをするなど積極的な活動を学生が自主的に行いました。自分たちにとってのテーマの重要性を考えることが出来たのだと思います。

参加を終えて

STOCK リーグへの参加により得られる教育的成果は以下の点かと思えます。

- ・ 座学での受身の受講態度を改め、主体的に行動をするきっかけになること。
- ・ 「株式学習」というレンズを通し、社会が直面する諸問題に接することができること。
- ・ それらの問題解決には、複数分野の勉強が必要であることに気づくことができること。
- ・ 正解なき問題にチームで挑み、それを共に考え、議論し、まとめることの難しさを学べること。
- ・ レポート作成・提出という手続き通し、一定の事務手続きと締切（Deadline）を守ることの大切さを学べること。

私の専門分野は国際経営論であり株式投資論などは研究しておりません。実は、かつて米銀の国際証券部門におりましたが、海外機関投資家によるポートフォリオに感心することが何度かありました。それは着眼点の違いとでもいうのでしょうか。もちろん高度な数学的知識を駆使して債券・株式投資する手法もありますが、優秀な頭脳集団を抱えながらも市場から消え去った事例があるのも歴史的事実です。

生徒・学生たちには、固定観念を捨て、想像力と創造力を発揮し、「異見」をぶつけ合って取り組む面白さを体験して戴きたいと思います。

第12回 NOMURA Award（特別協賛社賞）受賞者コメント

日本大学 山路進兼任 講師

参加数 : 11回（※2～7回は、日本大学・城北埼玉中学校で参加）

受賞コメント

STOCK リーグ参加の経緯

STOCK リーグは知人に紹介され、関心を持ち講義・実習に取り入れました。私が担当しているのは、コンピュータ・リテラシー（旧：教職コンピュータ基礎）と言う講義で、経済教育を第一の目的とする講義ではありません。講義の目的は、情報の収集・分析・解釈・創造・編集・表現・伝達および理解などに関わる情報活用能力の育成を目的としています。STOCK リーグは、この目的を学ぶための課題として適切だと考え参加しております。事前学習は、前期の講義・実習時から経済学習に関心を持つように少しずつ話題提供を行い、スムーズに課題に取り組めるように配慮しています。

STOCK リーグの取り組みについて

学生自身が講義の課題や内容に深い関心を持ち「自ら調べ自ら考える」学習を基本姿勢にして、協働学習が円滑に行えるように学習環境を整備しています。STOCK リーグが、キャリア教育や就職活動に結びつくと感じた時に学生のモチベーションが高まり、レポート作成に力が入るようになります。この気づきが起きるように間接的に指導することに留意しています。これまで、3年生で就活

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

動に悩んでいた学生が、この STOCK リーグの参加したことによって、就職活動の方向性や対策になったと感想を述べています

参加を終えて

一方的な知識伝達型の学習に慣れている学生に対して、「自ら調べ自ら考える」事の大切さを気づかせる学習環境をしていただき、とても感謝しております。これから学習で重要視されている OECD で提唱されている PISA 型の能力を育成するために、STOCK リーグはアクティブラーニングや協同学習を実現する事ができる学習環境として期待されています。今後も、この学習環境に多くの学習者が参加される事をお勧めいたします。